

東奥日報

2018年(平成30年)11月29日木曜日(14)

電気自動車、ハイブリッド車の事故――

救助安全、迅速に

消防隊員らが研修会

八戸

八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部は26、27の両日、電気自動車（EV）やハイブリッド車（HV）の事故や火災を想定し、救助技術の向上を目指す研修会を八戸市田向の同本部で開いた。管内の消防隊員ら240人が実習を通じて、救助を迅速に行うための方策を学んだ。（新村菜穂）

走行用の高電圧システムが使われているEV、HVからの救助について、消防隊員向け講習プログラムの開発に取り組んでいる浅川拓克・八戸工業大講師が、感電などの二次災害を防いで救助活動を行うための方法を解説した。

浅川さんはプラグインハイブリッド車（PHV）を

使い、車が水没して漏電した状態を再現した上で、感電の危険性があるかを判定するには車のどの部分を調べれば良いかを説明した。隊員たちは専用機器を車に当てて、安全確認方法を実践した。

八戸消防署第一消防隊の佐々木義光隊長（51）は「実物の車で勉強でき、有意義でした。HVの技術は進歩しており、われわれも時代に合わせてスキルを上げていかなければ」と感想を語った。

浅川さんは「不用意に電気を怖がって救助が遅れないよう、さらに講習内容を充実させたい」と話した。



浅川さん④の解説を受け、PHVを調べる消防隊員＝26日

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」